

小友沼

(おともぬま)



全景



小友沼と渡り鳥

ため池の概要

ため池の所在地

秋田県能代市

ため池の特徴

小友沼は、江戸時代に秋田藩が造った地域の貴重な農業用水源であると同時に、国際的に重要な渡り鳥の中継地として知られています。

沼は、秋田藩主・佐竹義宜の重臣、梅津政景・忠雄の父子二代にわたって、1617年から1675年までの58年間をかけて造られました。現在も約230haの水田を潤しており、大正後期に築造された全国でも珍しい扇形分水路により、放射状にかんがい用水が配水されています。

秋と春の渡りのシーズンには平均4万羽、最大10万羽のマガン、ヒシクイ、ハクチョウ等が羽を休めています。平成11年5月に「東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク」に参加し、また平成21年3月には「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ」の参加地にもなっています。

メダカ、スナヤツメ等の絶滅危惧種(環境省指定)も確認されている小友沼は、鳥類、魚介類の宝庫となっており、この豊かな自然を保全するため「おとも自然の会」が地道な活動を続けています。

近年、県内外から渡り鳥の中継地として認知され、観光客も増加しています。

関連情報

ガンカモネットワークホームページ(能代市 環境産業部 環境課)

<http://www.city.noshiro.akita.jp>